# 2014年3月期　決算補足説明資料

## （中期経営計画ローリング含む）

2014年5月8日

**アニコム ホールディングス株式会社**

（証券コード：8715）

# Ⅰ. 2014年3月期　決算概要

Ⅱ. 2015年3月期の見通し

Ⅲ. 中期経営計画ローリング2017

# 1. 2014年3月期 決算ハイライト

## 業績

■ **経常収益 ： 18,366百万円** （対前年同期 13.5％増）

■ **経常利益 ： 733百万円** （対前年同期 12.5％減）

ペット保険保有契約数は順調に増加。損害率・事業費率ともに改善し、**ペット保険引受事業は順調に良化**
ただし、**異常危険準備金における会計処理の取扱い**により、経常利益は想定通り減益で着地

## 損害率
（E/I）

■ **通期累計期間** ：66.7％ （前期 67.5％。0.8pt 改善）

■ **第4四半期単独** ：62.1％ （前年同期 63.1％。1.0pt 改善）

90％プラン販売停止効果や損害率改善諸施策により、**累計期間・4Q単独ともに対前期比で改善**

## 事業費率
(既経過保険料ベース)

■ **通期累計期間** ：28.6％ （前期 29.7％。1.1pt 改善）

■ **第4四半期単独** ：27.9％ （前年同期 29.3％増。1.4pt 改善）

売上増加による規模の経済効果や業務効率の継続的な改善により、**事業費率も順調に良化を辿る**

※ 当第4四半期から、従来開示していた「正味事業費率」（損保事業費÷"正味収入保険料"）よりも期間損益計算結果に近い事業費率として、「既経過保険料事業費率」（損保事業費÷"既経過保険料"）にて算出された数値を事業費率として開示いたします

## その他定性情報

■ アニコム損保の**ペット保険保有契約が50万件を突破**（当期末50.4万件。対前期末比 13.1％増）

■ 予防型保険会社グループとして、高度医療を提供する**新子会社**（日本どうぶつ先進医療研究所㈱）**を設立**

■ 動物病院向け**クラウド型カルテ管理システム**（アニレセF）**を富士通㈱と共同で開発・販売**開始

# 2. 2014年3月期　連結業績概況

（百万円）

| | 13年３月期 | 14年３月期 | 対前期増減率 |
|---|---|---|---|
| 経常収益 | 16,186 | 18,366 | 13.5% |
| 保険引受収益 | 15,781 | 18,087 | 14.6% |
| 資産運用収益 | 260 | 108 | △ 58.4% |
| その他経常収益 | 143 | 171 | 19.0% |
| 経常費用 | 15,348 | 17,633 | 14.9% |
| 保険引受費用 | 11,450 | 13,448 | 17.5% |
| （正味支払保険金） | (9,465) | (10,693) | 13.0% |
| （損害調査費） | (581) | (660) | 13.7% |
| （諸手数料及び集金費） | (853) | (1,029) | 20.5% |
| （支払備金繰入額） | (140) | (149) | 6.1% |
| （責任準備金繰入額） | (409) | (916) | 123.9% |
| （うち未経過保険料） | (686) | (842) | 22.7% |
| （うち異常危険準備金） | (△277) | (73) | - |
| 資産運用費用 | 0 | 18 | 3,859.8% |
| 営業費及び一般管理費 | 3,632 | 3,982 | 9.6% |
| その他経常費用 | 264 | 183 | △ 30.5% |
| 経常利益 | 837 | 733 | △ 12.5% |
| 当期純利益 | 640 | 447 | △ 30.1% |

| | | | |
|---|---|---|---|
| E/I 損害率 | ① | 67.5% | 66.7% | △ 0.8 pt |
| 既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率 | ② | 29.7% | 28.6% | △ 1.1 pt |
| ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｼｵ(完全既経過ﾍﾞｰｽ) | ①+② | 97.2% | 95.3% | △ 1.9 pt |

※ 上記比率の詳細説明は【APPENDIX2-1】主要な経営指標の推移にて記載しております

## 主な勘定科目の内容と増減理由

**① 保険引受収益**（詳細は「6. 経常収益のパラメータ」ご参照）

・損害率対策として主にオンライン契約の引受を強化する一方、新規・継続ともに順調に契約獲得が進み、保有契約は50万件を突破

**② 資産運用収益**

・主に上場株式の運用益。前期は金利の先高観から債券売却を進めた結果、債券売却益が多額に計上されていた

**③ 正味支払保険金**

・保険金支払体制の継続的な強化により、保有契約の増加による保険金請求の増加に対しても迅速な支払が達成され、支払保険金が増加

**④ 諸手数料及び集金費**

・主に代理店に対する手数料。保有契約数の増加に伴って増加

**⑤ 支払備金繰入額**

・将来の保険金支払に備えるための繰入額であり、支払備金(B/S)期末残高－期首残高で算出。なお、③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる

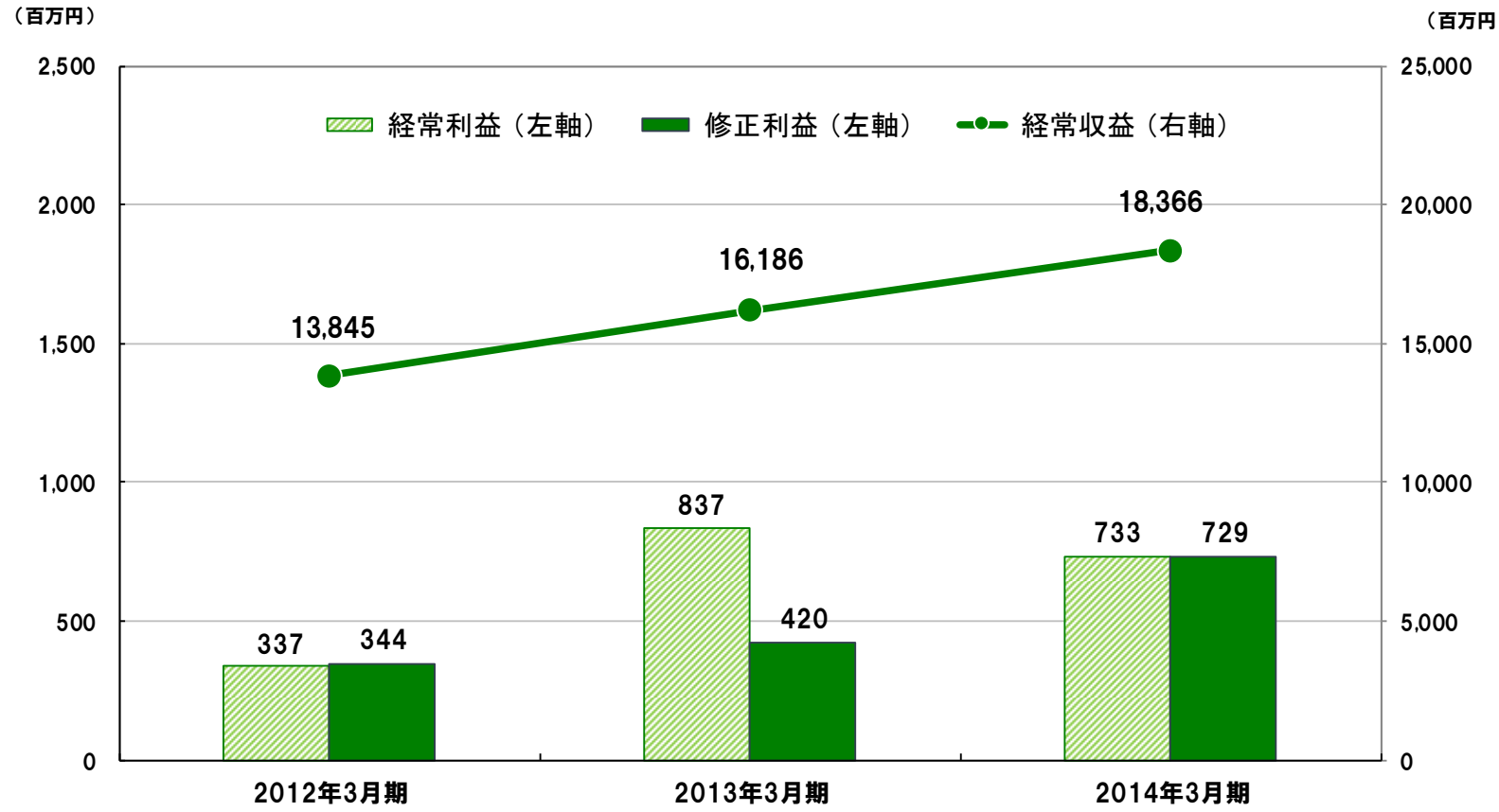
**⑥ 未経過保険料(繰入額)**

・収入保険料のうち翌期以降に期間対応する保険料を繰り延べており、①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料(≒発生ベースの保険料)となる。繰入額は期末残高－期首残高で算出されるが、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる

**⑦ 異常危険準備金**（詳細は「5. 異常危険準備金の会計処理」ご参照）

# 3. 経常収益・経常利益・修正利益の年度別推移

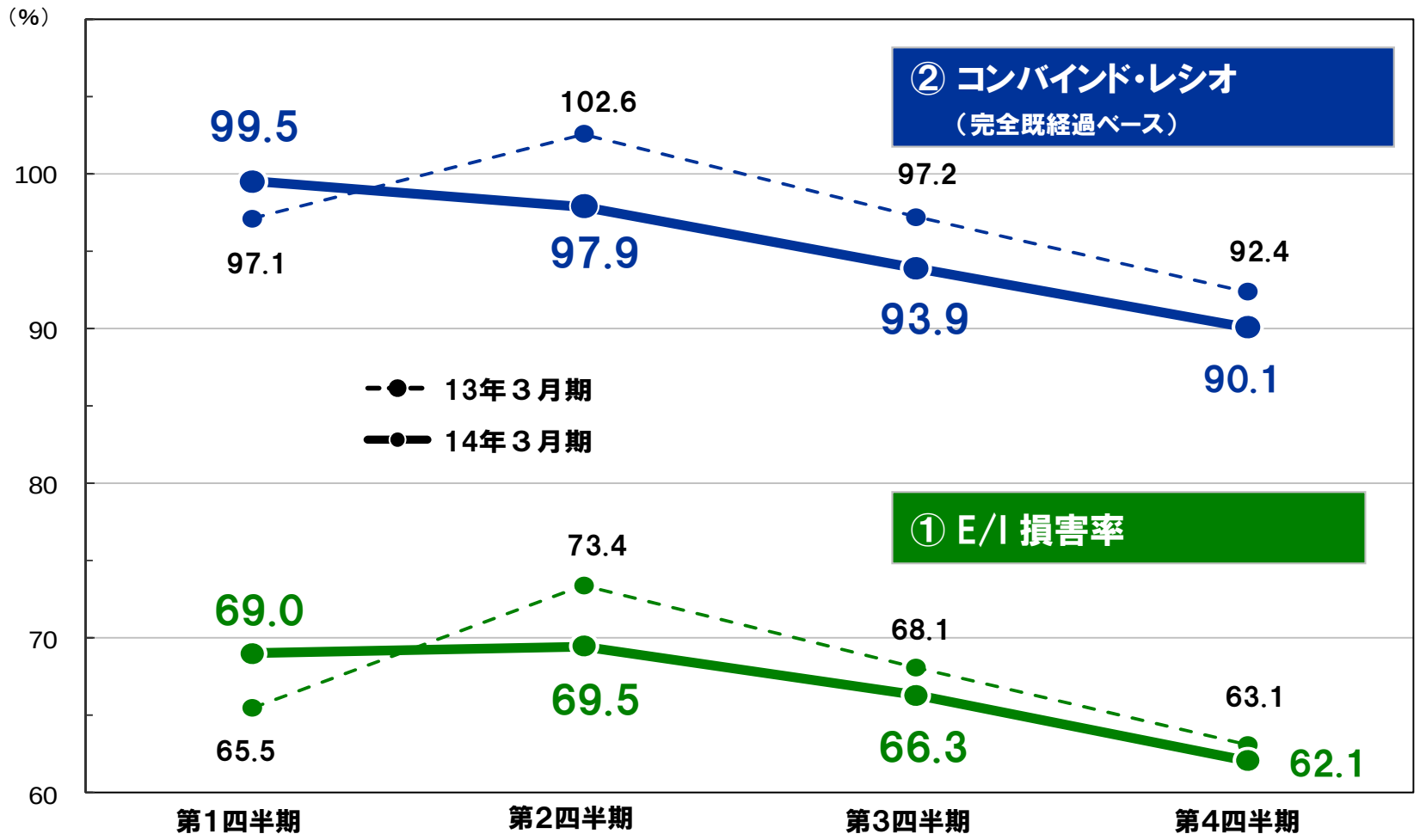
（注）修正利益　：ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
経常利益±異常危険準備金影響額±資産運用収支±その他収支にて算出。




- 新規契約の伸長、高水準の継続契約獲得により、**経常収益は18,366百万円**（対前期比**13.5％増**）
- 対前年で経常減益となっている理由は、**保険引受事業の収益性は改善**しているものの、**異常危険準備金の会計処理**（詳細は「5. 異常危険準備金の会計処理」）により351百万円の押し下げ要因があったためである。

# 4. E/I損害率・コンバインド・レシオ（完全既経過ベース。注） 四半期推移・前年同期比較

（注）コンバインド・レシオ（完全既経過ベース）：E/I損害率＋既経過保険料ベース事業費率で算出した利益指標。
13ページ【APPENDIX2-1】の③に相当。




・13年7月末での90%プラン終了をはじめとする損害率改善施策の効果により、E/I損害率は当期第2四半期以降、前年同期を下回って推移 （上表①）

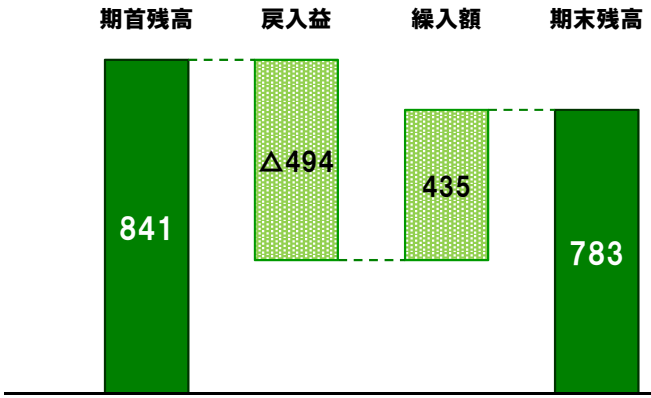
・損害率のみならず事業費率の改善も進んでいることから、当期のコンバインド・レシオは順調に改善 （上表②）

# 5. 異常危険準備金の会計処理による損益への影響

- 異常危険準備金は巨大リスク等に備えて積み立てが制度化されているものであり、**収入保険料の3.2％が毎期費用計上**される
- **正味損害率が50％を超えると取崩し**が発生し、正味損害率が50％となる水準まで取崩しが行われるが、**取崩し額は前期末(≒当期首)残高が限度**となる
- 当社の場合、**取崩しは2012年3月期以降**始まっている(繰入はアニコム損保㈱が開業した2009年3月期以降、毎期計上)
- **2014年3月期以降は**、おおよそ**増収分×3.2％が毎期費用計上**される

（単位:百万円）

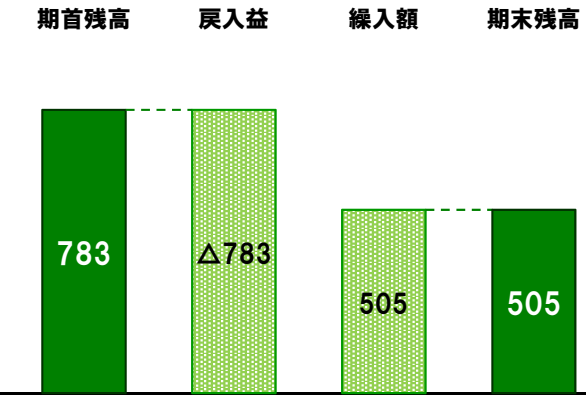
## ■ 2012年3月期




| | |
|---|---|
| 期首残 | 841 |
| 取崩益 | △494 |
| 繰入額 | 435 |
| 期末残 | 783 |

（Net損益）58 の利益計上

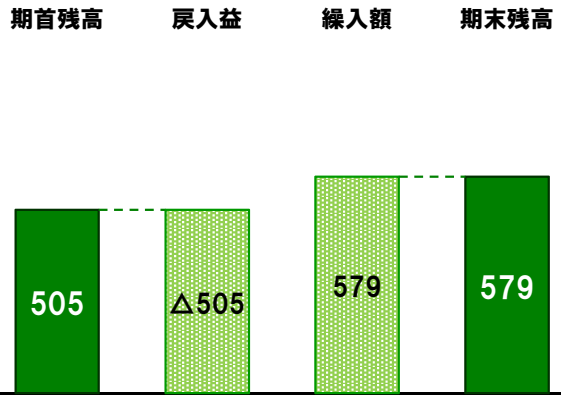
## ■ 2013年3月期




| | |
|---|---|
| 期首残 | 783 |
| 取崩益 | △783 |
| 繰入額 | 505 |
| 期末残 | 505 |

（Net損益）277 の利益計上

## ■ 2014年3月期



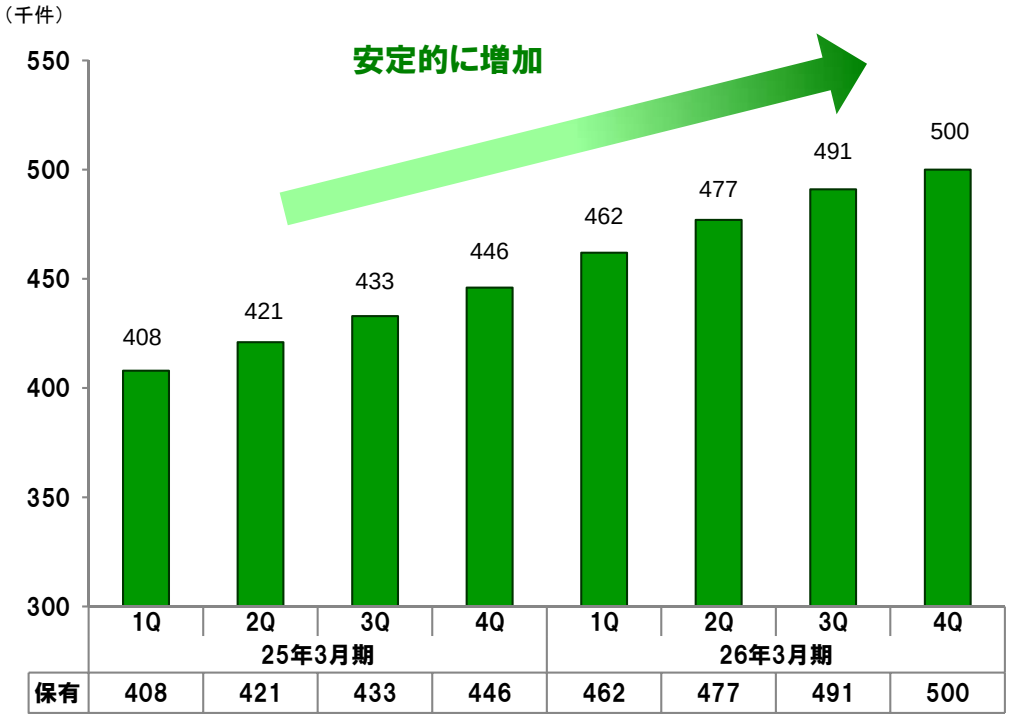

| | |
|---|---|
| 期首残 | 505 |
| 取崩益 | △505 |
| 繰入額 | 579 |
| 期末残 | 579 |

（Net損益）73の費用計上

# 6. 経常収益のパラメータ（ペット保険保有契約数/新規獲得件数の推移）

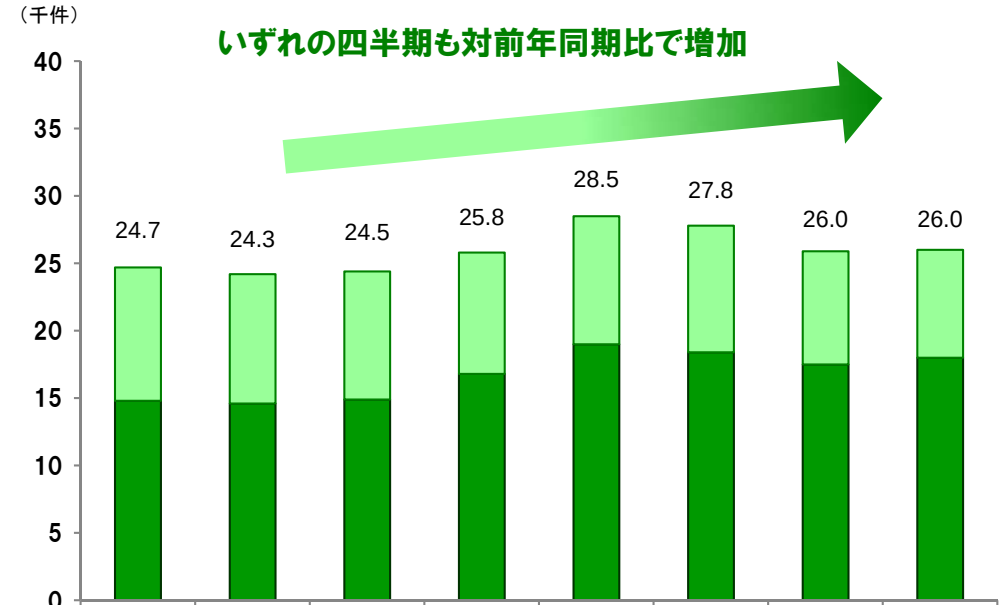
- 保有契約件数は安定的に増加。**当期末には50万件を突破**し、前期末比13.1％増の50.4万件
- **新規契約獲得件数は四半期ベースでいずれも前年同期比で増加。**通期では前期比9.7％増の10.9万件の獲得
- 一般新規契約のなかで損害率が高い傾向にあった**オンライン契約の引受体制強化**（補償開始日の延長、70％プラン引受停止）を行ったため一般新規契約数は減少したが、**損害率の良好な新生児（NB）契約獲得が堅調**
- 50％プランと70％プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ2：1で50％プラン割合が多い。一方、新規契約では70％プランが5割超

## ■ 保有契約件数の四半期推移




| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 25年3月期 | | | | 26年3月期 | | | |
| 保有 | 408 | 421 | 433 | 446 | 462 | 477 | 491 | 500 |

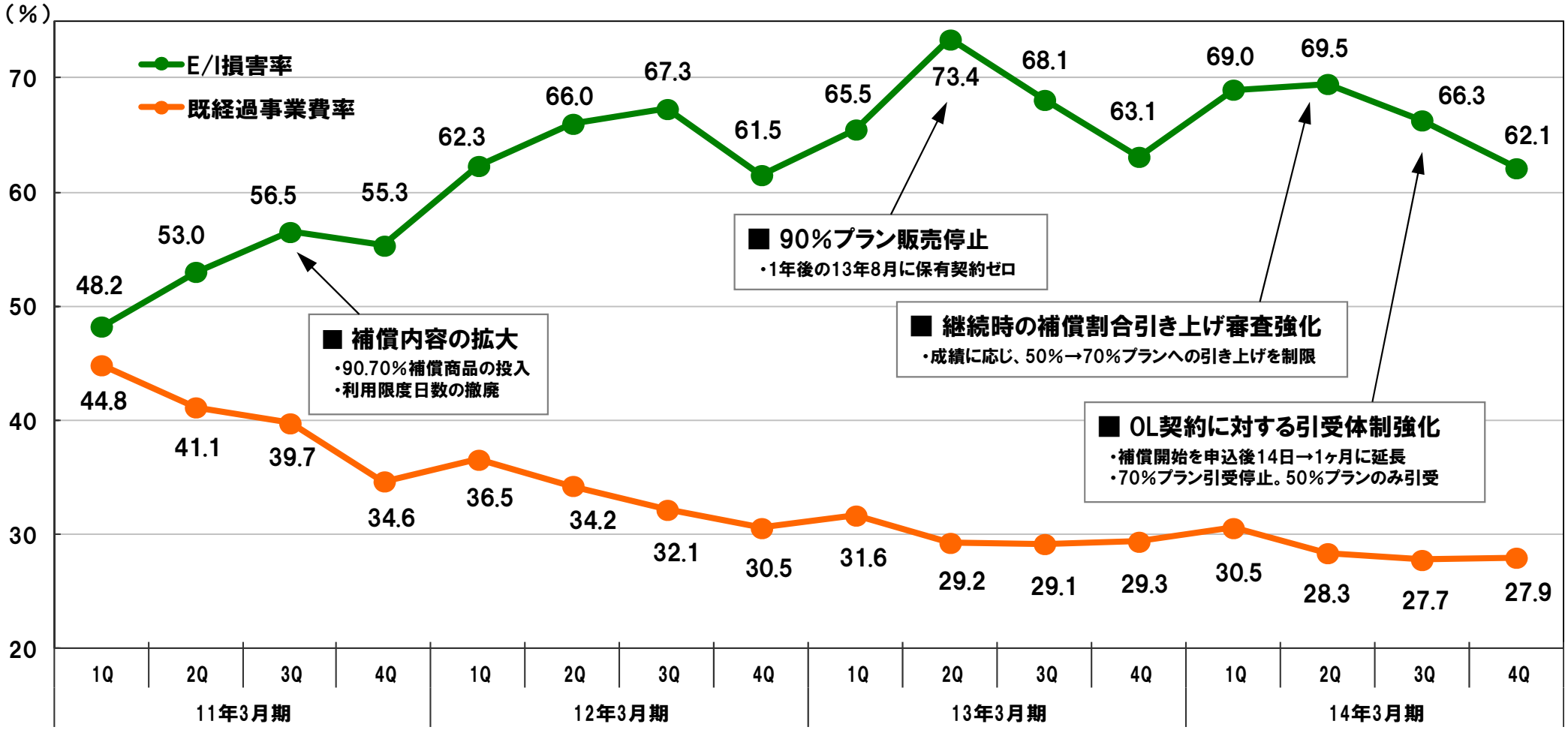
## ■ 新規契約獲得件数の四半期推移




| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 25年3月期 | | | | 26年3月期 | | | |
| □一般 | 9.9 | 9.6 | 9.5 | 9.0 | 9.5 | 9.4 | 8.4 | 8.0 |
| ■NB | 14.8 | 14.6 | 14.9 | 16.8 | 19.0 | 18.4 | 17.5 | 18.0 |
| 合計 | 24.7 | 24.3 | 24.5 | 25.8 | 28.5 | 27.8 | 26.0 | 26.0 |

# 7. 経常費用のパラメータ（損害率(E/I)・既経過保険料ベース事業費率の四半期推移）

注1）下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
注2） 当第4四半期において、過年度分も含めて事業費率は「正味事業費率」（損保事業費÷正味収入保険料）から、「既経過保険料ベース事業費率」（損保事業費÷既経過保険料）に変更しております。




- E/I損害率は、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに改善する傾向に変化はない。当期は各種損害率改善施策効果の発現により2Q以降対前年同期比で改善をはじめ、通期では66.7%。対前期比0.8ptの改善を達成
- 事業費率は、規模の経済効果に加え経費管理の徹底、効率化に向けた取り組み等により通期では28.6%。対前期比1.1pt改善。今後の営業拡大施策等により若干の変動を見込むものの、30%を下回る水準で安定して推移

# 8. 連結貸借対照表サマリー

（百万円）

| | 13年３月期 | 14年３月期 | 増減率 |
|---|---|---|---|
| **資産合計** | **16,872** | **18,634** | **10.4%** |
| 現金及び預貯金 | 4,986 | 4,454 | △ 10.7% |
| 有価証券 | 9,272 | 11,367 | 22.6% |
| 有形固定資産 | 86 | 118 | 37.0% |
| 無形固定資産 | 373 | 477 | 28.1% |
| その他資産 | 1,940 | 2,112 | 8.8% |
| うち保険業法第113条繰延資産 | 646 | 484 | △ 25.0% |
| 繰延税金資産 | 219 | 116 | △ 47.2% |
| 貸倒引当金 | △ 7 | △ 13 | - |
| **負債合計** | **9,067** | **10,385** | **14.5%** |
| 保険契約準備金 | 7,702 | 8,768 | 13.8% |
| うち支払備金 | 1,142 | 1,291 | 13.1% |
| うち責任準備金 | 6,560 | 7,476 | 14.0% |
| その他負債 | 1,292 | 1,520 | 17.7% |
| 賞与引当金 | 69 | 86 | 24.2% |
| 価格変動準備金 | 2 | 10 | 290.9% |
| **純資産合計** | **7,805** | **8,248** | **5.7%** |
| 株主資本 | 7,795 | 8,306 | 6.5% |
| うち資本金 | 4,238 | 4,282 | 1.0% |
| うち資本準備金 | 4,128 | 4,172 | 1.0% |
| うち利益剰余金 | △ 571 | △ 147 | - |
| うち自己株式 | △ 0 | △ 0 | - |
| 評価・換算差額等 | 9 | △ 57 | - |
| **負債・純資産合計** | **16,872** | **18,634** | **10.4%** |

## 主な勘定科目の内容と増減理由

### ① 有価証券

・主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用

### ② 保険業法第113条繰延資産

・2017年3月期まで毎期1.6億円の均等償却予定

### ③ 支払備金

・将来の保険金支払に備えて計上される未払金
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生していると推測されるものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上

・基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向

### ④ 責任準備金

・未経過保険料である①普通責任準備金（6,897百万円）と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金（579百万円）を計上

・普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%～40%前後が残高として計上される傾向

・異常危険準備金は「5.異常危険準備金の会計処理による損益への影響」ご参照

# 9. 連結キャッシュ・フロー計算書サマリー

（百万円）

| | 13年３月期 | 14年３月期 |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,507 | 2,009 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,852 | △ 2,052 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 85 | 60 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △ 260 | 17 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,543 | 1,283 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,283 | 1,301 |

**主な内容と増減理由**

**① 営業活動**

- 税金等調整前当期純利益(724百万円)の計上に加え、保険契約の増加により責任準備金も増加(916百万円)

**② 投資活動**

- 保有契約増大に伴って運用資産が増加しているため、投資額が増加

**③ 財務活動**

- 主に新株予約権行使による増加

・コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上

・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール

# 【APPENDIX 1】経営パラメータの推移 （損保単体）

| | 12年3月期末 | ① 13年3月期末 | ② 14年3月期末 | ②－① 対前年度末増減(率) | 15年3月期（5/8時点予想） |
|---|---|---|---|---|---|
| 保有契約数 | 396,234件 | 446,414件 | 504,969件 | 58,555件 (13.1%) | 555,404件 |
| 新規契約数 | 101,014件 | 99,504件 | 109,170件 | 9,666件 (9.7%) | 107,500件 |
| 平均継続率 | 87.6% | 88.1% | 89.3% | 1.2pt | 87.9% |
| 対応医療機関数 | 5,115病院 | 5,349病院 | 5,599病院 | 250病院 (4.7%) | 5,839病院 |

- 堅調な新規契約と高水準の継続契約が相俟って、**保有契約数は50万件を突破**（前期末比13.1％増）
- ペットショップ代理店を中心に**11万件弱の新規契約を獲得**（前期比9.7％増）
  14年3月期下期から一般契約のうちオンライン契約の引受審査を強化していることから、15年3月期においては同チャネルによる新規契約は半減するが、その他のチャネルではいずれも前期比で増加を想定
- **平均継続率は89.3％と引き続き高水準で推移**し、継続契約を安定的に獲得（前期比1.2pt上昇）
  ただし、14年6月の保険料改定により、15年3月期の継続率は前期比で若干の下落を想定
- **対応医療機関数が5,600病院に迫り**（前期比＋250病院。4.7％増）、お客様にとってより一層利便性が向上

# 【APPENDIX 2-1】主要な経営指標の推移（損保単体）

| | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 対前期比 | 15年3月期（予想） |
|---|---|---|---|---|---|
| **①E/I 損害率**<br>…発生ベースの損害率<br>（正味支払保険金＋支払備金増減額＋損害調査費）/既経過保険料 | 64.3% | 67.5% | **66.7%** | 0.8pt 改善 | 67.3% |
| **②既経過保険料事業費率**<br>…発生ベース保険料（既経過保険料）に対する損保事業に関する事業費率<br>（諸手数料及び集金費＋損保事業の営業費及び一般管理費）/既経過保険料 | 33.2% | 29.7% | **28.6%** | 1.1pt 改善 | 28.8% |
| **③コンバインド・レシオ**（完全既経過ベース）<br>…発生ベース保険料（既経過保険料）に対する発生損害率＋発生事業費率<br>（E/I損害率＋既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率＝①＋②） | 97.5% | 97.2% | **95.3%** | 1.9pt 改善 | 96.1% |
| **単体ソルベンシー・マージン比率** | 307.2% | 281.3% | **295.1%** | 13.8pt 改善 | 285.0% |

※1 既経過保険料は、「保険引受収益 － 未経過保険料繰入額（責任準備金繰入額の内訳）」にて算定
※2 ②における「損保事業の営業費及び一般管理費」は、連結損益計算書の営業費及び一般管理費に含まれる保険引受事業に関する費用
※3 従来開示していた経営指標は【APPENDIX2-2】に記載しております

- 保険事業における主要な経営指標として、すべて既経過保険料をベースとした発生ベースの指標である①E/I損害率、②既経過保険料ベース事業費率、③コンバインド・レシオ（完全既経過ベース）は改善傾向を辿っております
- 従来のコンバインド・レシオは、「現金ベースの損害率＋現金ベースの事業費率」もしくは「発生ベースの損害率＋現金ベースの事業費率」で開示しておりましたが、**当期末から「発生ベースの損害率＋発生ベースの事業費率」**を主要指標として開示することで、経常利益との整合性を図っております

# 【APPENDIX 2-2】その他の経営指標の推移 （損保単体）

| | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 対前期比 | 15年3月期（予想） |
|---|---|---|---|---|---|
| ①W/P損害率…現金ベース損害率<br>（正味支払保険金＋損害調査費）/正味収入保険料 | 57.3% | 63.7% | 62.8% | 0.9pt 改善 | 62.3% |
| ②E/I 損害率…発生ベース損害率<br>（正味支払保険金＋支払備金増減額＋損害調査費）/既経過保険料 | 64.3% | 67.5% | 66.7% | 0.8pt 改善 | 67.3% |
| ③正味事業費率…現金ベース保険料に対する損保事業費率<br>（諸手数料及び集金費＋損保事業の営業費及び一般管理費）/正味収入保険料 | 30.9% | 28.5% | 27.3% | 1.2pt 改善 | 27.1% |
| ④コンバインド・レシオ（合算率）…現金ベース保険料による損害率＋事業費率<br>（正味損害率+正味事業費率＝①＋③） | 88.2% | 92.2% | 90.0% | 2.2pt 改善 | 89.4% |
| ⑤コンバインド・レシオ（E/Iベース）…現金ベース保険料による損害率＋事業費率<br>（E/I損害率＋正味事業費率＝②+③） | 95.2% | 96.0% | 94.0% | 2.0pt 改善 | 94.4% |

# 【APPENDIX 3】配当への考え方と当社の現状

- 株主還元の重要な施策の1つとして配当の必要性を認識しております
- しかしながら、現状では配当可能額が確保できていないため、配当を行うことができません
- 今後、当期純利益の計上を続けることにより配当可能額が確保された段階で、配当の実施を検討する方針です

| 配当可能額確保のためにクリアすべき主な課題 | 2014年3月末時点残高 |
|---|---|
| 1. 利益剰余金残高がマイナス | △147 百万円 |
| 2. 保険業法113条繰延資産残高を計上 | △484 百万円 |
| 合計 | △632 百万円 |

Ⅰ. 2014年3月期　決算概要

# Ⅱ. 2015年3月期の見通し

Ⅲ. 中期経営計画ローリング2017

# 1. 2015年3月期 業績見通し概要サマリー

## 業績

■ 経常収益 ： 21,790百万円 （対前年同期 18.6%増）

■ 経常利益 ： 800百万円 （対前年同期 9.2%増）

ペット保険保有契約数は順調に増加するとともに期中の保険料改定効果が一部寄与し、**増収ペースが加速**するが
消費税増税による損害率上昇を見込むため、**当期の経常利益は微増にとどまる**
一方、保険料改定効果が通期に亘り寄与する**2016年3月期には、大幅な増益**を見込む

## 損害率（E/I）

■ 通期累計期間 ：67.3% （前年同期 66.7%）

保険料の改定は、契約更改時期に応じて順次適用されるため、2015年3月期収益への影響は1/3程度にとどまる
一方、消費税増税の影響と90%商品販売停止効果の一巡等により、損害率は対前期比で若干上昇する見通し
ただし、保険料改定効果が通期に亘り寄与する2016年3月期は、損害率の低下を見込む

## 事業費率（既経過保険料ベース）

■ 通期累計期間 ：28.8% （前年同期 28.6%）

将来の収益力強化に繋げるため、東北支店の開設など引き続き営業力拡大を目的とした積極的かつ戦略的な投資を実行するほか、収益性アップのためにシステム投資を含む保険金支払体制強化についても投資を継続
ただし、投資による費用増加に対しては、規模の経済効果や業務効率の継続的な改善によりほぼ吸収する見通し

## 定性情報

■ 保険金（≒診療費）および一部の経費は消費税増税の影響を受ける

■ 損保開業以来初となる**保険料の改定を実施**（2014年6月）するが、**当期の増収効果は1/3程度**であり、**改定効果が一巡する2016年3月期の損害率は大きく改善する見込み**

# 2. 2015年3月期 重点施策

・当期の重点施策を以下3つとしており、特に損害率コントロール強化を当期の最重点施策と認識しております。
手厚い補償により契約者への満足度を高めることで安定した契約獲得力の源泉とする一方、適正な保険制度運営を確保するため、
長期的に60％前後で損害率をコントロールするための施策を当期も順次投入する方針です。

## 1. 損害率コントロール強化

消費税増税の影響やリスク濃縮が認識されるなか、
魅力ある保険として契約者への還元と適正な保険制度
運営のバランスに配慮した施策を投入し、
長期的に60％前後の損害率を目指す。

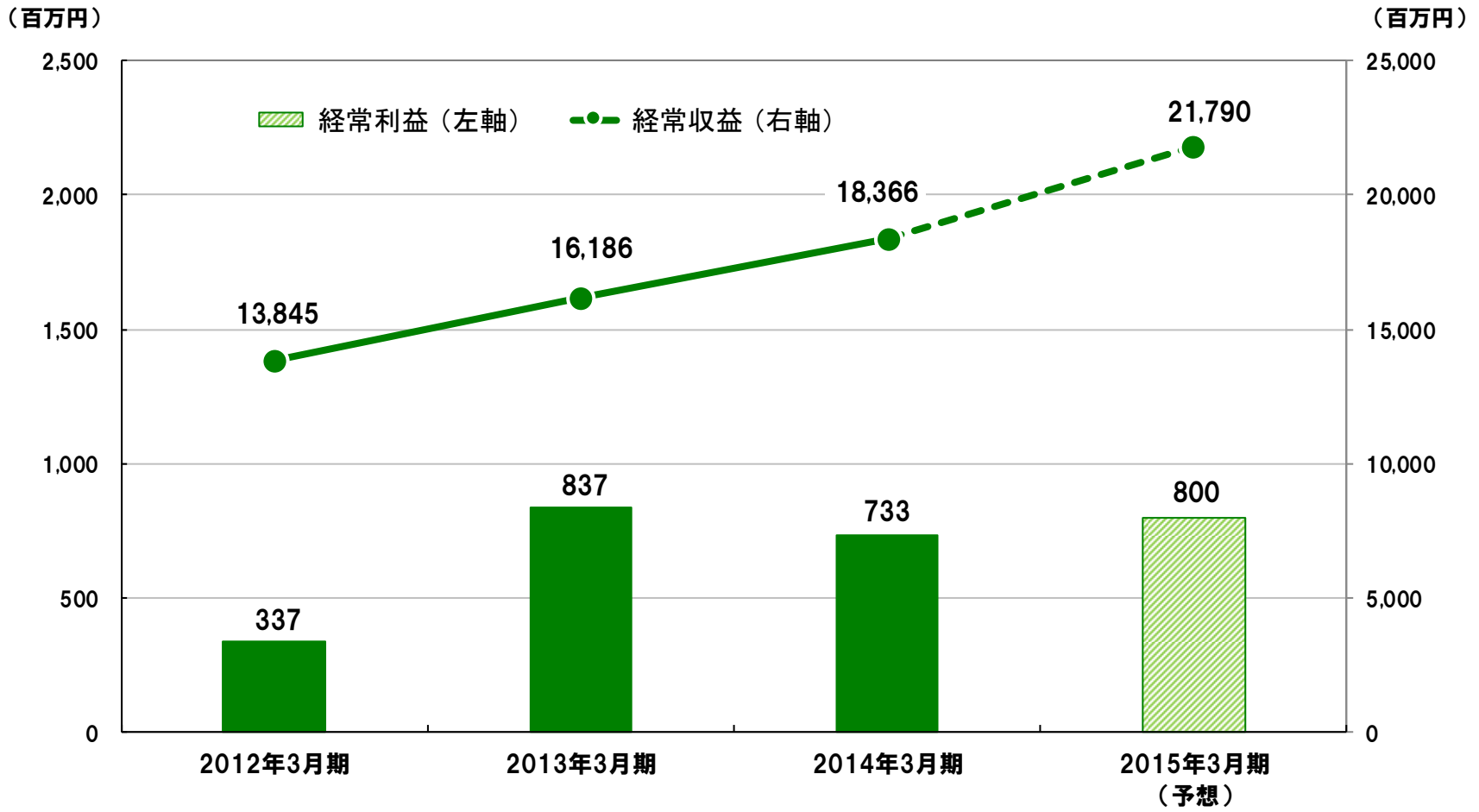
## 2. 新規契約獲得力強化

新規代理店の開拓や既存代理店との関係を強化し、
新規契約獲得力を一層強化。
東北支店も開設し、機動性ある営業を展開。

## 3. 新規事業へリソース投入

前期にローンチした高度医療事業（JASMINE）、
クラウド型カルテ管理システム（アニレセF）に
経営リソースを投入しペット保険とのシナジーを加速。
今後も新たな事業シーズを探求。

# 3. 経常収益・経常利益の年度別推移

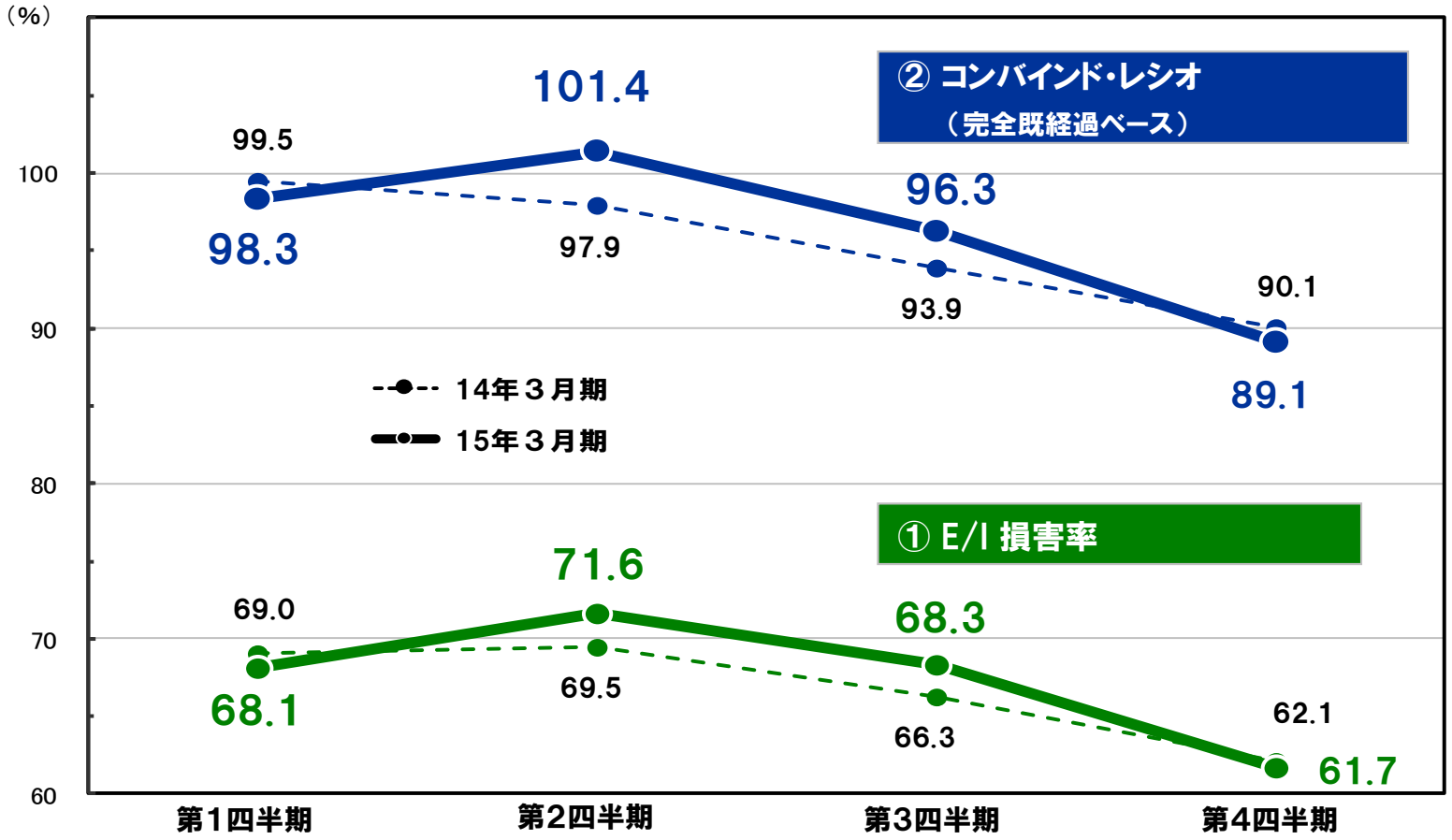



・新規契約の伸長および保険料改定により、**経常収益は21,790百万円**（対前期比18.6％増）を見込む

・**消費税等により損害率は若干上昇するものの、増収効果により、経常利益は800百万円**（対前期比9.2％増）の**増益を見込む**

# 4. E/I損害率・コンバインド・レシオ（完全既経過ベース。注） 四半期推移・前年同期比較

（注）コンバインド・レシオ（完全既経過ベース）：E/I損害率＋既経過保険料ベース事業費率で算出した利益指標。
13ページ【APPENDIX2-1】の③に相当。



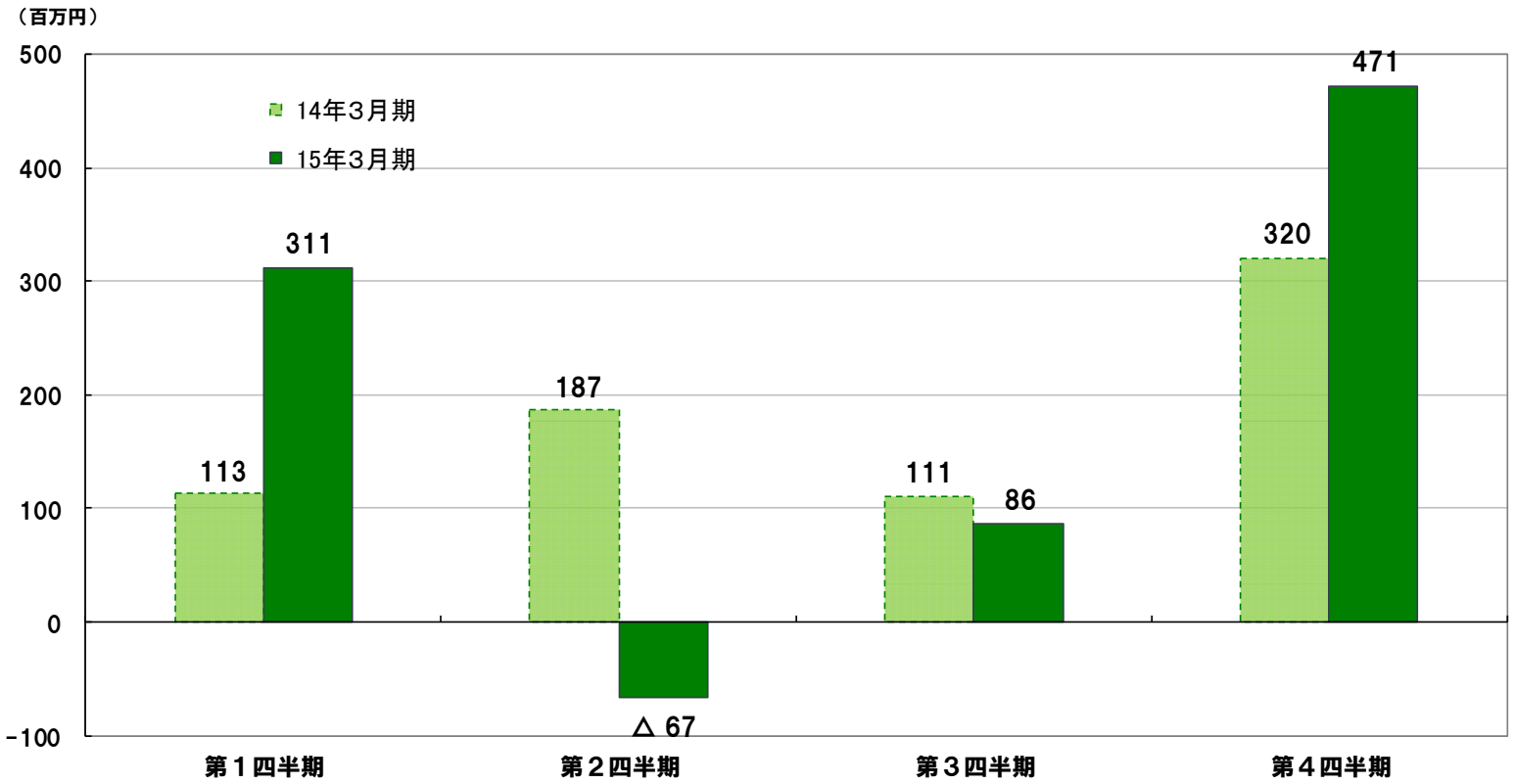

・第１四半期：14年3月期は90%プラン契約の満期前利用が嵩んだため、消費税増税の影響を受ける15年3月期よりも高水準となっていた。

・第２四半期：ペット保険の季節性により、1Q比で上昇。前2Q比での上昇は消費税の影響によるもの。
14年3月期は2Qで90%プラン保有契約が無くなったため、1Qから2Qの損害率上昇が抑えられている。

・第３四半期：季節性により、2Q比で改善。前3Q比では消費税の影響あるものの保険料改定による効果が発現し始めることで、損害率およびコンバインド・レシオの前年同期差は2Qに比較して縮小。

・第４四半期：季節性により、3Q比で改善。加えて保険料改定効果が広がることから、前4Q比で損害率およびコンバインド・レシオは改善を見込む。

# 5. 経常利益 四半期予想推移・前年同期比較




| | 第１四半期 | 第２四半期 | 第３四半期 | 第４四半期 |
|---|---|---|---|---|
| 異常危険準備金の影響 | ・戻入益あり<br>・繰入額あり<br>→ Netで利益計上<br>（285百万円の利益見込） | ・戻入益一部あり<br>・繰入額あり<br>→ Netで費用計上<br>（27百万円の費用見込） | ・戻入益なし<br>・繰入額あり<br>→ 費用計上のみ<br>（172百万円の費用見込） | ・戻入益なし<br>・繰入額あり<br>→ 費用計上のみ<br>（182百万円の費用見込） |
| 前四半期からの損害率の動き | → | → | ↘ | ↘ |
| | 4Qから上昇 | 1Qから上昇 | 2Qから改善 | 3Qから大きく改善 |

# 6. 消費税増税による影響

・ペットの**診療費は消費税の対象**であるため、**保険金は増税の影響を受ける**
・一方、**収入保険料は増税の効果を受けない**（非課税取引）
・経費のうち、**大部分の物件費と一部の人件費も、増税の影響を受ける**

## コンバインド・レシオで 2.3～2.5pt前後、経常利益（※1）で4.6～5.0億円前後の損益悪化要因

（※1）2015年3月期ベース

| | 14年3月期 | 増税考慮後 | 影響度 |
|---|---|---|---|
| E/I損害率 | 66.7% | 68.6% | ▲1.9pt |
| 事業費率（既経過保険料ベース）<br>（うち、半分以上が課税対象と仮定） | 28.6% | 29.0%～<br>29.2% | ▲0.4pt～<br>▲0.6pt |
| コンバインド・レシオ<br>（完全既経過ベース） | 95.3% | 97.6%～<br>97.8% | ▲2.3pt～<br>▲2.5pt |

| | 影響額試算 |
|---|---|
| 既経過保険料<br>（2015年3月期予算） | 約200億円 |
| コンバインド・レシオ<br>悪化率 | ▲2.3pt～<br>▲2.5pt |
| 経常利益への影響 | ▲4.6億～<br>▲5.0億円 |

6月実施の保険料改定により吸収を図るが、2015年3月期への収益改善効果は一部にとどまる（※次項ご参照）

## 保険料改定効果の本格的な寄与は2016年3月期以降に発現

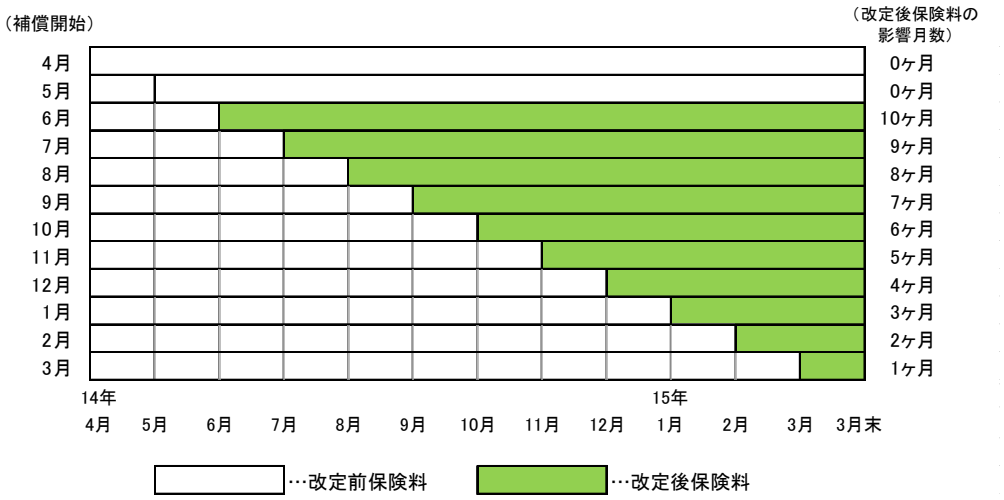
# 7. 保険料改定による収益へのインパクト

・2014年6月以降補償開始のご契約から**平均で12%程度保険料を引上げ**。これによる**継続率の下落は2pt未満**と試算
・ただし更改時に順次適用のため**2015年3月期の増収効果は1/3程度**。一方、**2016年3月期はほぼフルに寄与**
・今後も損害率の状況に合わせ、**適時適切に保険料の改定を検討する方針**

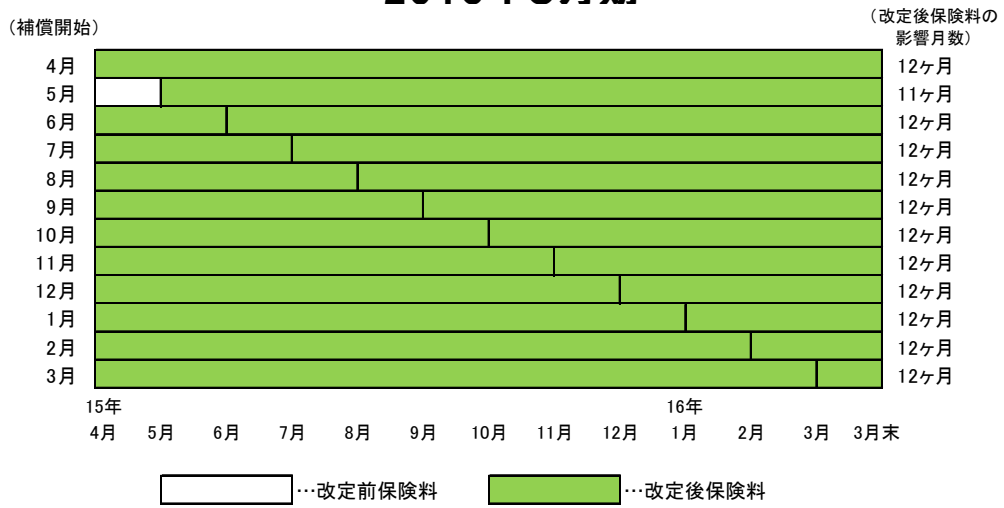
## ■ 更改月別の改定保険料適用時期と収益への影響イメージ図

・・・ 改定後の既経過保険料（発生ベースの保険料）

### 2015年3月期




### 2016年3月期




6月以降補償開始の契約から保険料の改定を開始するが、改定後の保険料は更改時に順次適用されるため、効果は段階的
（Ex.6月更改契約は10/12ヶ月、1月更改契約は3/12ヶ月、5月更改契約は影響なし）

**2015年3月期は改定効果が1/3程度にとどまる**

改定からほぼ1年経過するため、効果が一巡する

**2016年3月期は改定効果がほぼフルに寄与する**

Ⅰ. 2014年3月期　決算概要

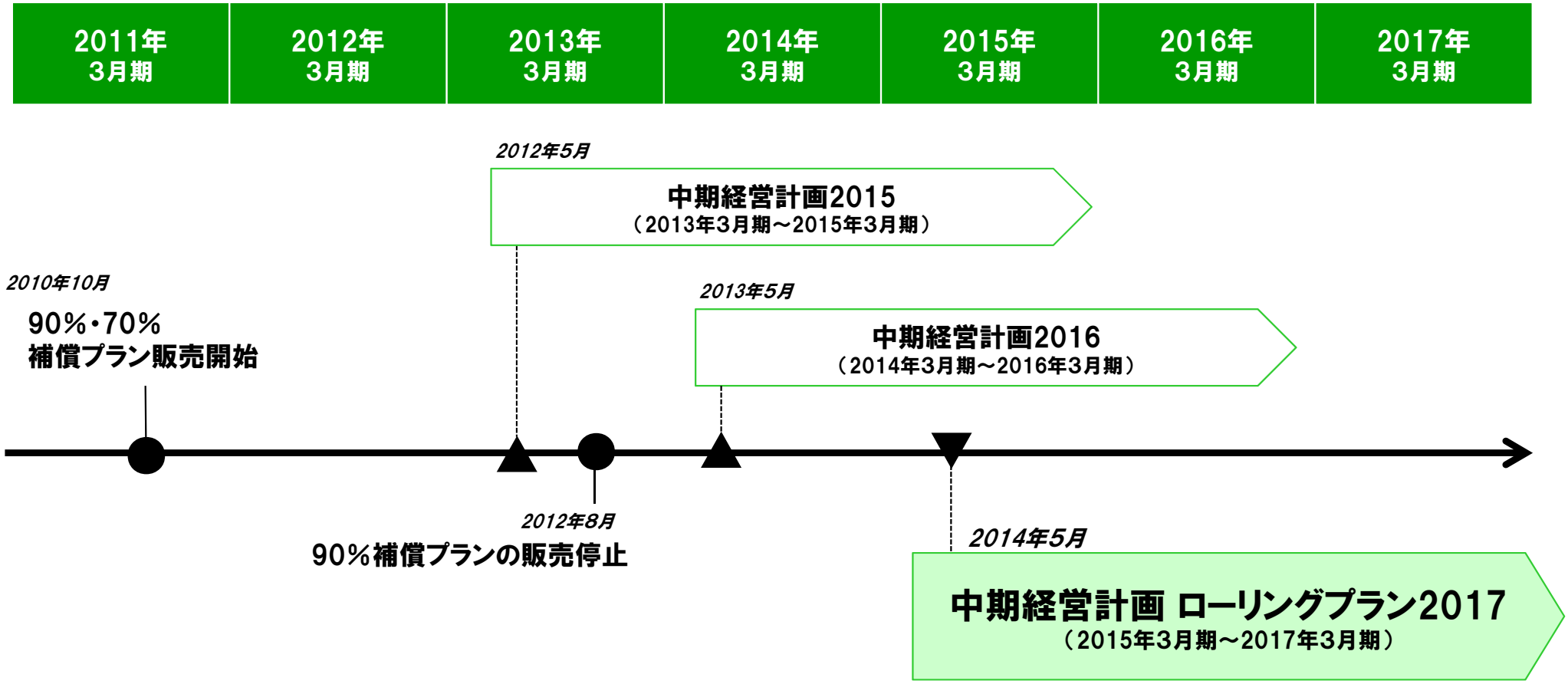
Ⅱ. 2015年3月期の見通し

# Ⅲ. 中期経営計画ローリング2017

# 1. 中期経営計画ローリングについて

□ 中期経営計画は、3カ年の環境変化等を想定して策定するものですが、環境の変化に機敏に対応すべく、毎年のローリング（中期経営計画の再策定）を実施します。なお、年度でのローリング実施を基本としておりますが、大きな環境変化が認識される場合には、
期中でのローリングを実施することとしております。

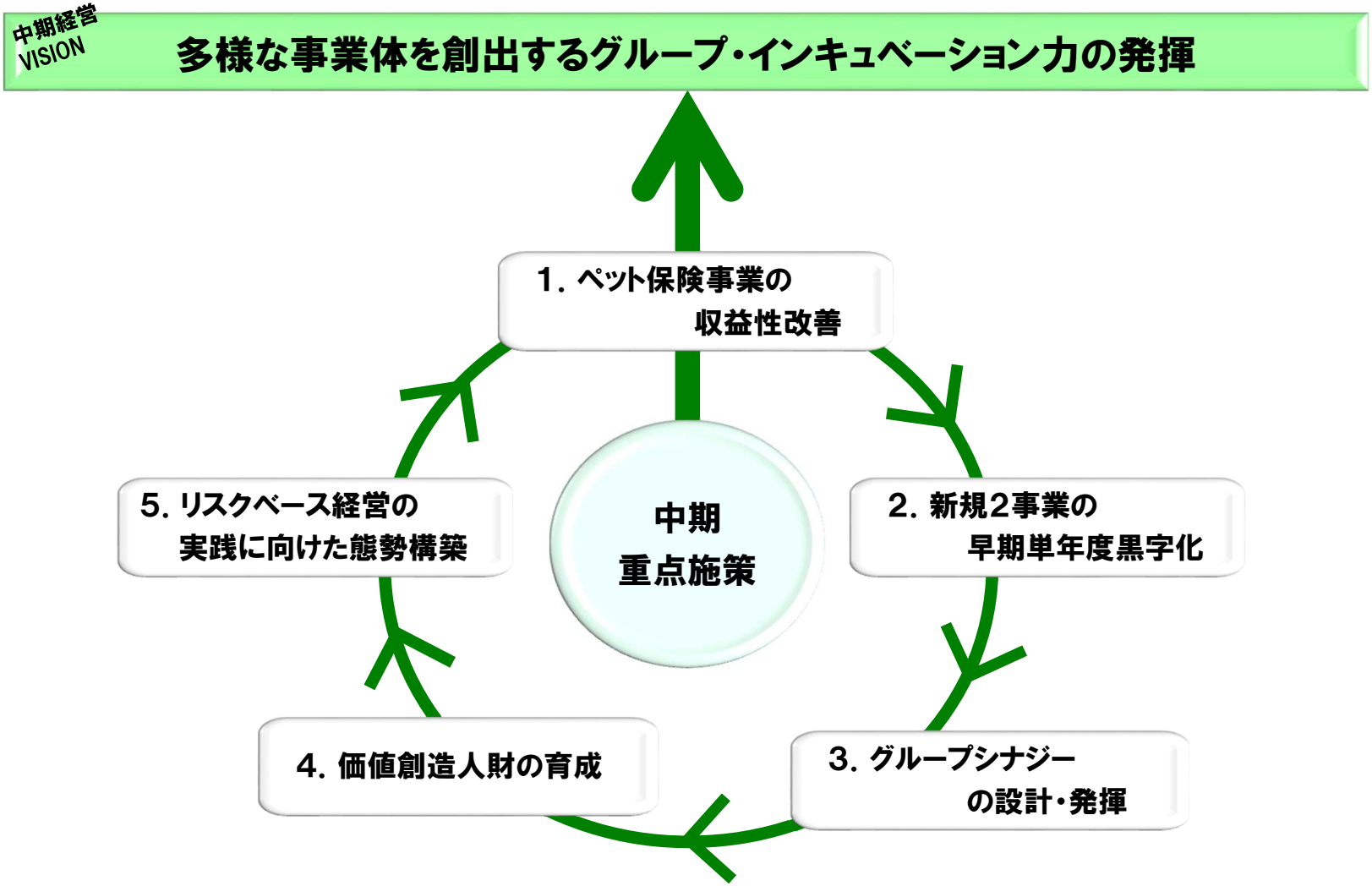
□ 今年度は、2015年3月期～2017年3月期に係る「中期経営計画ローリングプラン2017」を策定いたしました。



# 2. 中期経営VISIONについて

□ 当社グループの持続的な成長に向け、「多様な事業体を創出するグループ・インキュベーション力の発揮」を中期経営VISIONとして掲げております。

□ 中期経営VISIONを踏まえた施策として、「ペット保険の収益性改善」を軸に、事業の多角化を推進すべく平成26年3月期に立ち上げたアニレセF事業、日本どうぶつ先進医療研究所事業の「新規2事業の早期単年度黒字化」、さらにこれまでグループに蓄積された知見を活用した「グループシナジー発揮」とそれを加速させるための「価値創造人材の育成」、そしてこれらグループの成長を促すためにリスクと資本にフォーカスした経営判断を行うべく「リスクベース経営の実践に向けた態勢構築」を進めてまいります。



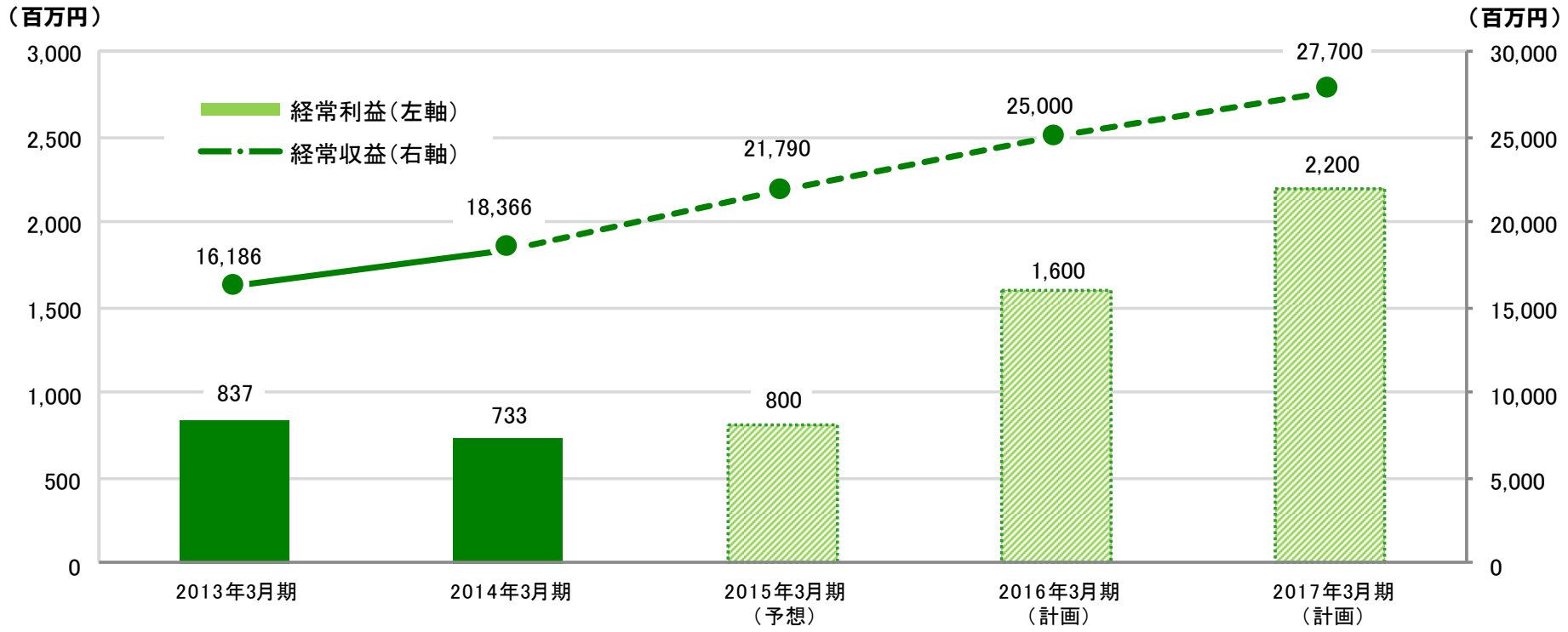
# 3. 外部環境/内部環境分析

□ 当社グループが保険業としてペット保険事業を開始してから丸6年が経過し、これまで堅調に市場を拡大しております。
今後も市場成長を阻害するような大きな環境の変化は想定しておりませんが、現時点において、グループを取り巻く外部環境及び内部環境を以下のとおり認識しております。

| | |
|---|---|
| **外部環境** | ・ペット関連市場は、今後も「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」に対応する商品、サービスにより、ペットとの共生やペットの健康に関する市場は緩やかに拡大するものと想定する |
| | ・生体の販売頭数は横ばい、もしくは微減傾向で推移すると想定するが、ミクロ的にはペットショップの販売力や立地に依存する。有力ペットショップはさらに拡大傾向にある |
| | ・競合環境として、当社グループ以外の保険会社は3社。少額短期保険会社は7社。損保1社の新規参入があったものの、競争環境の大きな変化は想定しない |
| **内部環境** | ・損害率コントロール施策の展開により損害率は改善傾向に転じてはいるものの、さらなるコントロール施策を要すると認識。2014年には保険料の改定を実施 |
| | ・主力募集チャネルであるペットショップ代理店を中心に、新規代理店の開拓や付保率向上のための営業を強化。2014年には東北支店を開設し、東北地方の営業を強化 |
| | ・新規事業として2013年度に立ち上げた動物病院向けクラウド型カルテ管理システム「アニレセF」、日本どうぶつ先進医療研究所㈱の2事業にリソースを投入し、ペット保険で得た知見を横展開 |

○ 損害率改善による収益性の向上、積極的な営業施策実行によりペット保険事業を一層強化するとともに、どうぶつ医療を軸にした新規事業を展開することで多角化を図り、持続的な成長基盤を構築する

# 4. 中期経営計画ローリング2017 経常収益・経常利益




（百万円）

| | 2013年3月期 | 2014年3月期 | 2015年3月期（予想） | 2016年3月期（計画） | 2017年3月期（計画） |
|---|---|---|---|---|---|
| 経常収益（ローリング案） | 16,186 | 18,366 | 21,790 | 25,000 | 27,700 |
| 経常収益（中期経営計画2016。前回） | - | 18,136 | 20,218 | 22,570 | - |
| 経常利益（ローリング案） | 837 | 733 | 800 | 1,600 | 2,200 |
| 経常利益（中期経営計画2016。前回） | - | 1,010 | 1,714 | 2,468 | - |
| E/I損害率（ローリング案） | 67.5% | 66.7% | 67.3% | 65.5% | 64.6% |

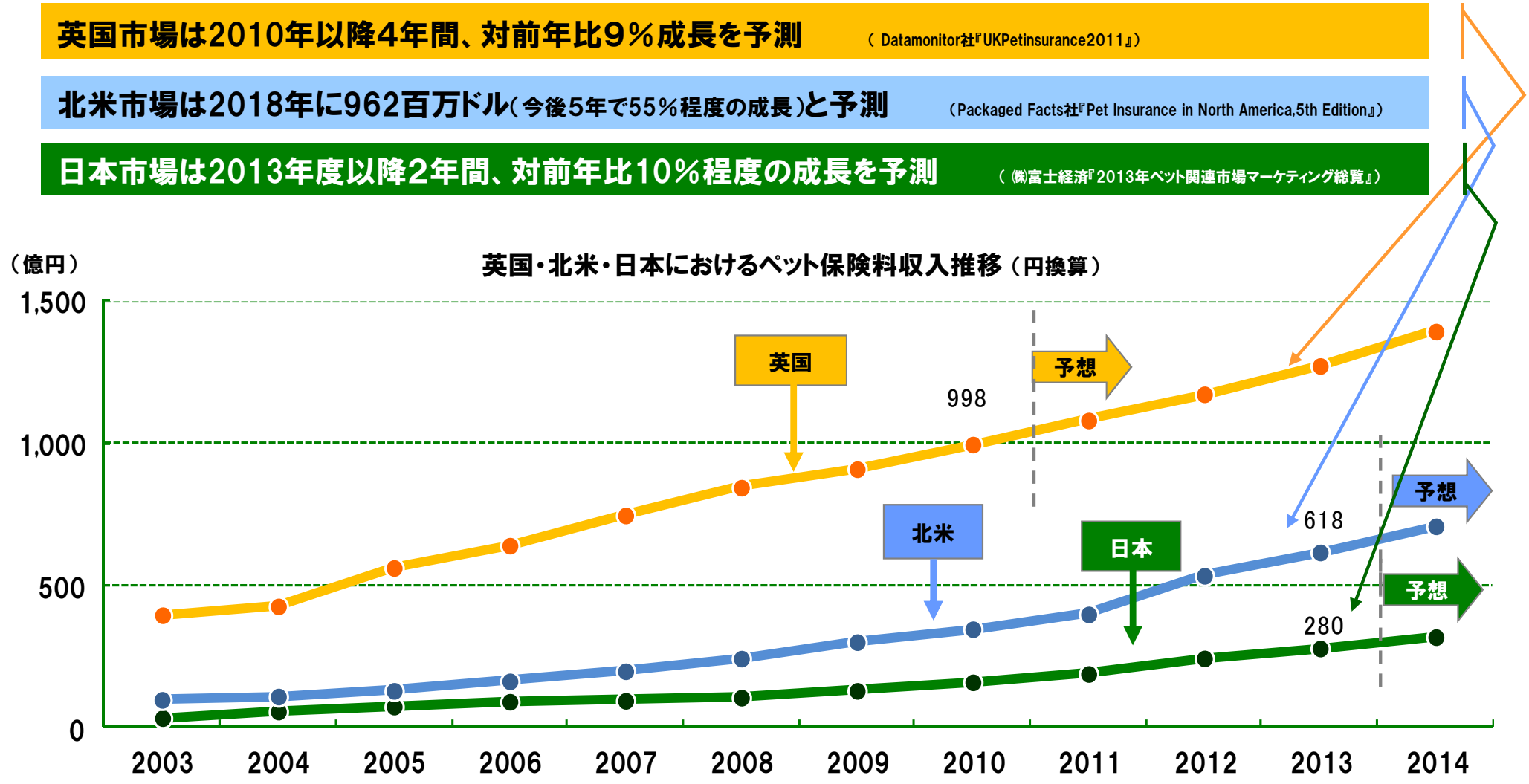
# 【APPENDIX 1－①】英国・北米・日本のペット保険市場規模の推移

□ ペット保険先進国の英国や2000年代から普及が本格化した北米をはじめ世界的にペット保険の認知度は向上しており、
ペット保険市場は今後も成長を続けるものと想定しております。
日本においてもペット保険市場に成長阻害要因は予見されず、順調に拡大すると見込んでおります。

**英国市場は2010年以降4年間、対前年比9％成長を予測**　（ Datamonitor社『UKPetinsurance2011』）

**北米市場は2018年に962百万ドル（今後5年で55％程度の成長）と予測**　（Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,5th Edition』）

**日本市場は2013年度以降2年間、対前年比10％程度の成長を予測**　（ ㈱富士経済『2013年ペット関連市場マーケティング総覧』）




出典：　英国市場　：Datamonitor社『UKPetinsurance2011』・1￡＝170円換算で算出
北米市場　：Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,5th Edition』・1＄＝100円換算で算出
日本市場　：㈱富士経済『2013年ペット関連市場マーケティング総覧』

# 【APPENDIX 1－②】日本のペット保険市場の潜在規模（推定）

□ 英国のペット保険加入率は約25％、一方日本は約3.9％と推定されます。
日本が英国と同等の加入率に成長すると仮定すると、市場規模は約1,600億円超と試算されます。

| 国 | 人口<br>（世界銀行2011年度） | ペット（犬・猫）<br>飼育頭数 | 1人当たり<br>飼育頭数 | ペット保険<br>加入率 | 市場規模 | 1契約単価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 英国 | 6,274万人 | 1,520万頭 | 4.1人に1頭 | 約25.0％ | 約1,000億円 | 約26千円 |
| 北米 | 34,607万人 | 18,500万頭 | 1.9人に1頭 | 約1％超 | 約620億円 | 約31千円 |
| 日本 | 12,781万人 | 2,061万頭 | 6.2人に1頭 | 約3.9％ | 約280億円 | 約35千円 |

英国と同等の
ペット保険加入率
になると・・。

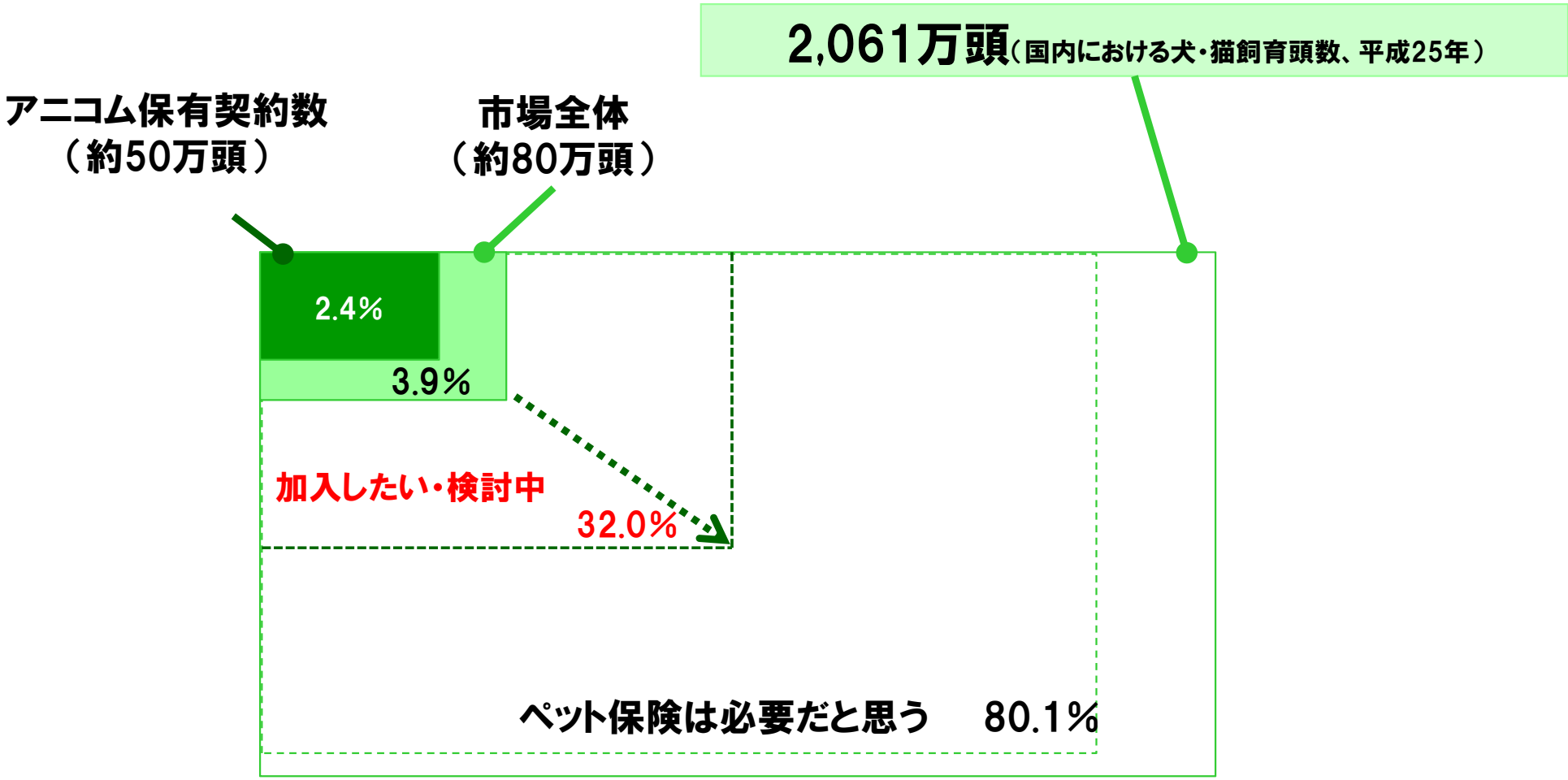
日本の
潜在市場規模

**約1,600億円超**

出典：前頁と同様
英国は2009年度データ、
北米、日本は2013年度データ
を元に算出

# 【APPENDIX 1－③】ペット保険市場拡大の可能性

□ 国内の犬・猫飼育頭数2,061万頭のうち、当社グループのペット保険保有契約数は約50万頭（約2.4％）にとどまっております。
飼い主の「ペット保険は必要である」との認識は高いことから、ニーズは拡大傾向で推移するものと想定しております。

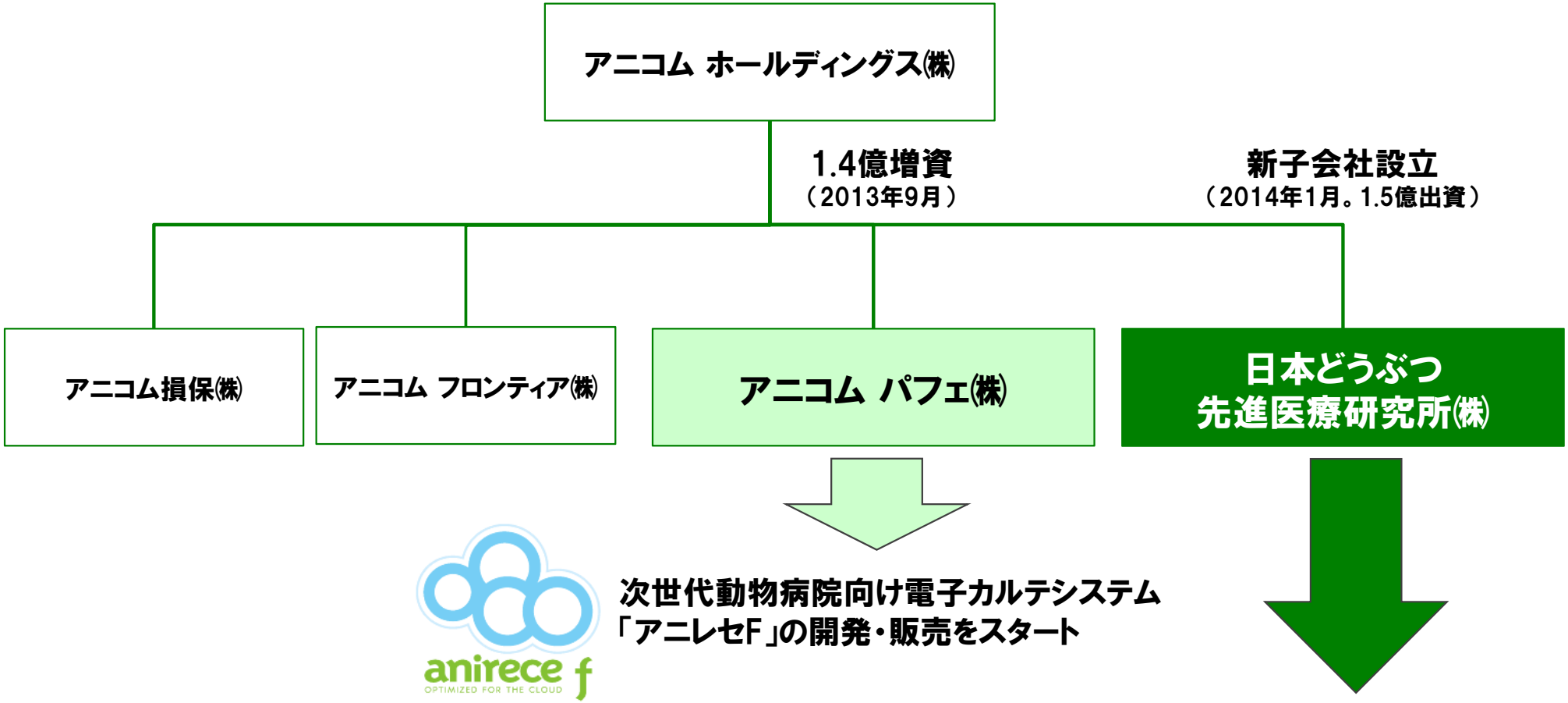



国内飼育頭数2,061万頭：平成25年ペットフード協会調べ
ペット保険契約数（市場全体）約80万契約：各社シェア等から当社試算
ペット保険の加入意向：ペット総研調べから当社試算

# 【APPENDIX 2－①】事業多角化への取り組み

□ グループ事業の多角化、更なる事業シナジーの発揮のため、子会社において以下の取り組みを行っております。

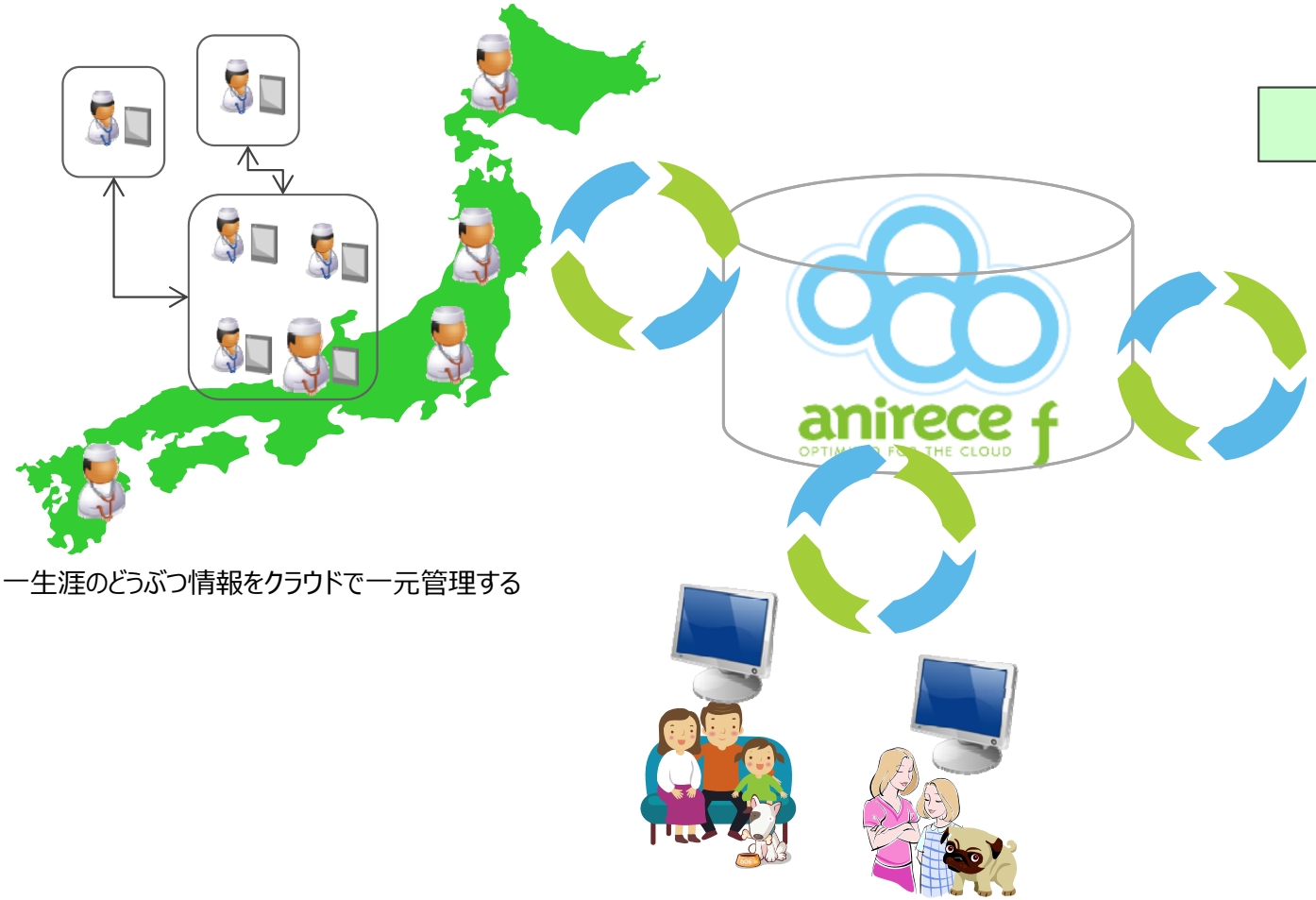
- アニコム パフェ㈱において、業界初となるクラウド版電子カルテシステムの開発・販売を開始
- ペット保険事業の健全かつ持続的成長を支えるべく、新子会社を設立。



# 【APPENDIX 2－②】クラウド型 動物医療カルテ管理システムの展開

- アニコム パフェ㈱の次世代主力商品として、富士通社との共同開発商品「アニレセF」を市場投入いたしました。
- 全国の動物病院をクラウド環境でつなぎ、獣医療の標準化への貢献、飼い主へのカルテ公開、ビッグデータの活用等、新たな付加価値をマーケットに提供します。

## 全国の動物病院をクラウド・ネットワーキング




・一生涯のどうぶつ情報をクラウドで一元管理する

## ビッグデータの活用

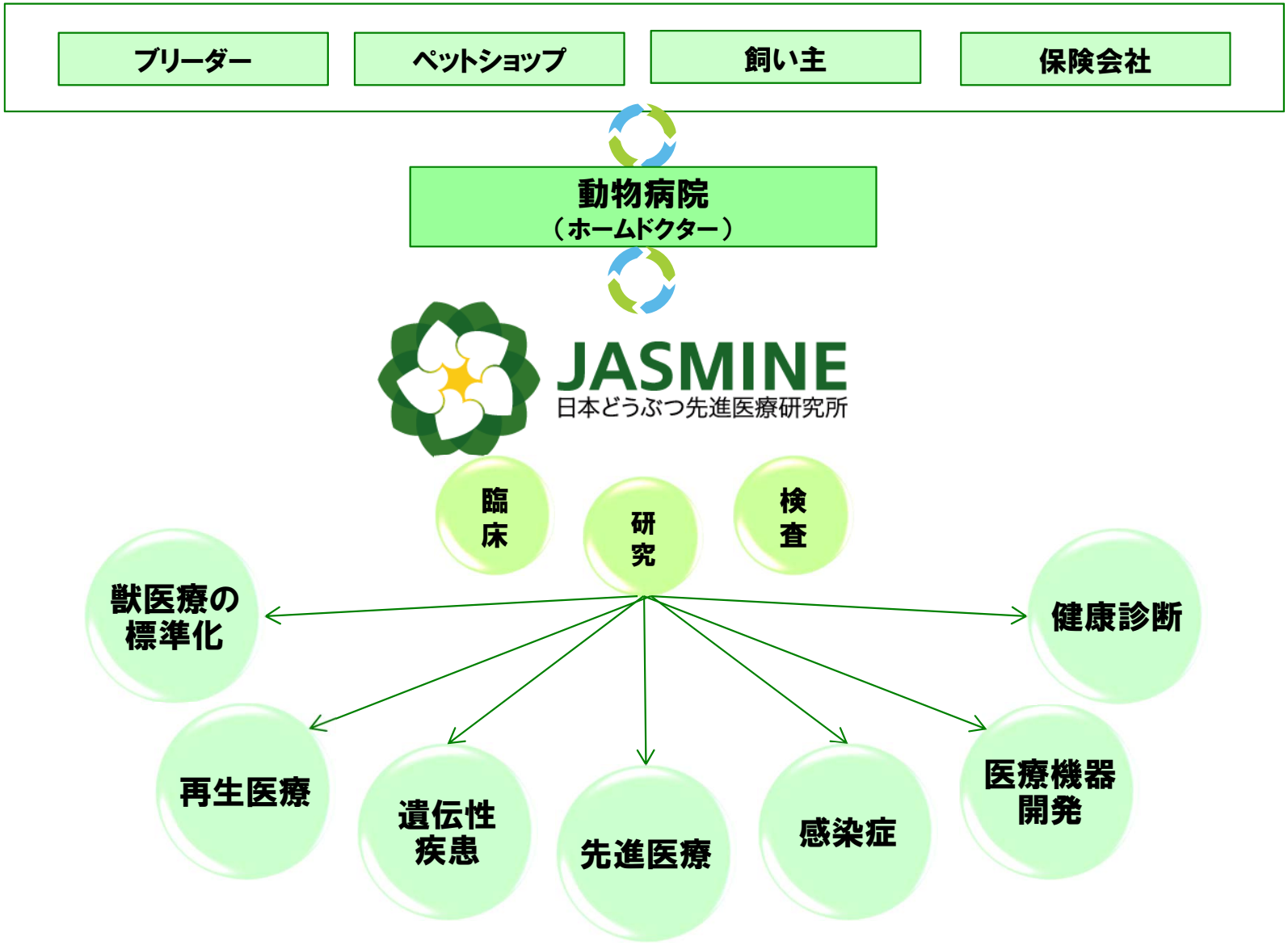
・統計情報公開に合意頂いた病院データから、各種疾患統計/経営情報等を分析/活用する

## 飼い主へのカルテ公開

・獣医師が動物病院で記録したカルテを飼い主が自宅で閲覧可能にする（カルテのオープン化）

# 【APPENDIX 2－③】動物向け先進医療事業への取り組み

- 当社グループの中核事業であるペット保険の健全な持続的成長を支えること、及びどうぶつ医療からヒト医療への貢献を目的として、『日本どうぶつ先進医療研究所株式会社〔Japan Animal Specialty Medical Institute Inc.（JASMINE）〕』を設立いたしました。
- 2014年4月から事業を開始。業容を拡大しつつ3年以内の黒字化を達成し、以降の利益貢献を目指します。



# 本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。 従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではございません。


お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社　経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22　アリミノビル　2F

URL：http://www.anicom.co.jp/